

2026 年 1 月 30 日 (金) 第 84 号



月刊フットマークは東京都墨田区にある水泳・介護・健康インナーメーカー「フットマーク」が月1回発行するニュースレターです。すべてのお客様へ向けて楽しく役に立つ情報を掲載した紙面づくりを心がけています。



いそべのりふみ
今期より代表取締役社長に就任いたしました磯部徳史です。

創業80年という節目を迎える本年、長年にわたり当社を支えてくださったお取引先の皆様をはじめ、関係するすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

私たちを取り巻く社会環境は、人口減少や気候変動、物価高騰など、大きな変化の只中にあります。こうした時代だからこそ、私たちは、現場での気づきや日々の積み重ねを起点とした、お客様一人ひとりの声を大切に聞き、カタチにしていける「1/1（いちぶんのいち）の視点」を大切に、価値ある商品づくりに取り組んでまいります。新素材の探求や、これまでにない発想から生み出す商品開発に挑戦し、既存の枠にとらわれない価値を創造してまいります。

戦後、赤ちゃんのおむつカバーからはじまり、水泳用品、介護用品へと事業を広げてきた当社の歩みは、時代ごとの課題やお客様の声に向き合いながら進化を続けてきた歴史そのものです。

先人たちが築いてきたものづくりへの想いと、現場で培われた知恵を大切に受け継ぎながら、すべての世代にうきうき・わくわくする商品を届けることが、私たちの使命です。

子育て支援や安全・安心なスクールライフ、近年の気候変動を背景とした熱中症対策、健康増進、介護の快適化など、暮らしのさまざまな課題に向き合い、安心と快適さを支える価値を提供してまいります。



代表取締役社長 磯部 徳史

まちがいさがし

間違いが10個隠されています。さてどこに？



※答えは下にあります。イラスト／長縄キヌエ

2026年は午年

今年の干支は「丙午（ひのえ・うま）」です。

干支というと「午(うま)」だけを思い浮かべがちですが、実は「丙」という要素も組み合わさっています。

「丙」は火を表し、明るさや前向きなエネルギーを意味するといわれています。

そのため丙午の年は、活気があり、物事が動きやすい年ともいわれています。

思い切って一歩踏み出したり、新しいことに挑戦したりするのも向いているそうです。

60年に一度巡ってくる丙午。

今年は、日々の中でちょっとした変化や前向きなチャレンジを楽しんでみるのもよいかもしれません。



編集後記

今年は午年ということで「馬」にゆかりのある神社に初詣に行きました。あまりSNSなどでも話題にあがっていない場所でしたが、やはりみんな考えることは同じ。1時間ほど待ちようやく参拝ができました。馬の勢いに乗り何か挑戦したい気分です。とはいえ健康第一で過ごせることが一番の願いです。最後に、今年もぜひ月刊フットマークをお楽しみいただければと思います。より良い紙面づくりに精進してまいります。

フットマーク株式会社

東京都墨田区緑 2-7-12

広報部

webmaster@footmark.co.jp

1. 指示してある馬の文字 2. 指示してある新聞の行数 3. 大きな書初めの文数 4. 真ん中左の女の子が持っている墨汁のフタの位置 5. 先生の後ろのバケツ 6. 2026 の文字横の男の子の事 7. 2026 の「6」 8. 真ん中右の黄緑色エプロンの男の子のリボンを結び 9. 「足」の書初めを持つ子の子の靴下 10. 掛け時計の掛けしている位置が高い



新入社員が4名入社



通学カバン「ONELOOK」が
キッズデザイン賞を受賞！

月2回くらいのペースで
コミュニケーションプロ
ジェクト主催で開催中。
普段関わりが少ない人との
接点の場にもなってい
ます。



コミュニケーションを活発に
社内でお茶会を開催！



社長交代・80期を迎える

おかげさまでフットマークは8/21より80年目に突入しました。また五代目社長として磯部徳史が就任。創業以来大切にしてきた「お客様の声」に一層耳を傾け、商品や体験を提供してまいります。本紙一面もぜひご覧ください。

フットマーク Hot ニュース 2025

2025年のフットマークを振り返りました。
新しい取り組み、新しい商品を
新しい一年にさらに活性化できるよう、
社員一同奮闘してまいります。



三自治体へ「ラクサックジュニア」を寄贈

創業80周年記念事業の一環として、地域社会への貢献活動を目的に、布製ランドセル「ラクサックジュニア」と寄付金を3つの自治体（福岡県岡垣町、宮崎県木城町、愛知県高浜市）へ寄贈しました。今後も地域社会と連携し、より一層持続可能な社会づくりに尽力してまいります。



猛暑対策商品が2026年夏に発売！
詳細は近日中に公開予定

となりの公園の桜の木も一
部伐採され、悲しみに暮れ
ている社員も。。
建物が一時的になくなった
ことにより社内の見晴らし
にも変化がありました。



となりの敷地で
マンション建設工事ははじまる

声から生まれた
「長持ちする入浴介護エプロン」



健康快互事業部が
介護施設でボランティア活動を実施

ボランティア体験を通じて、生のお客様の声を多く聴くことができました。貴重な経験を今後の新商品開発につなげていきます（健康快互事業部）